



日暮れが一段と早くなり、朝晩の冷え込みに晩秋の訪れを感じます。衣服をこまめに調整しながら、これから一段と寒くなる季節に負けず、元気いっぱいにご過ごしていきたいと思います。

内科健診のお知らせ

11月8日(水)・9日(木)
13:30~

8日: あひる1組、あひる2組、すみれ組

9日: きく組、ひよこ組、もも組

園医は渡利先生です



歯科検診のお知らせ

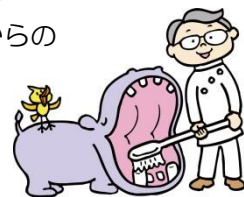
11月16日(木)
9:30~

朝ごはんをしっかり食べて

きれいに歯を磨いてからの

登園をお願いします

園医は平下先生です



夜になると熱が上がるのはなぜ!?

「昼間は熱がないのに夜になると熱が上がります」というお休みの連絡が増えています。一般的に体温は朝が最も低く、日中の活動によって少しずつ上がっていき、夜になると高くなります。子どもは病気が治っていても、症状が軽くなると遊びたがって体を動かすため、その疲れで夜になると熱が上がってることがあります。治ったかどうかを判断するためには、体温の経過をみるのが大切です。体調が悪い時は、朝・昼・晩(十適宜)体温を測って記録しておきましょう。夜熱が出やすい病気に、インフルエンザ、肺炎、中耳炎などがあります。夜熱があった場合は、翌朝熱がなくても受診を検討してください。また、登園は24時間以上、熱がないことを確認してからにしましょう。

抗生剤ってなに?

抗生剤(抗生物質、抗菌薬ともいう)は、細菌を退治するための薬です。細菌による感染症に、咽頭炎、中耳炎、気管支炎、肺炎などがあります。インフルエンザ、ノロ、アデノ、RSなどはウイルスによる感染症なので、抗生剤は効きません。

インフルエンザのときに処方される薬(タミフルなど)は抗ウイルス剤で、ウイルスを退治するものではなく増殖を防ぐ薬です。

受診のタイミング

夜熱が出ると、すぐに受診したほうがいいか迷いますよね。生後3か月未満のお子さんは、発熱時すぐに受診が必要です。生後6か月以上で熱以外の症状がない場合、水分がとれる、眠れる場合は翌日の受診でよいと思います。受診に迷った時は、病院に相談してみてください。

解熱剤はいつ使う?

発熱は体がばい菌と戦うために必要な反応です。高熱で脳に悪影響を及ぼすことはありませんが、食事ができない、眠れないなどつらい時には解熱剤を使いましょう。子どもの薬の量は体重で変わるので、必ず本人用に処方されたものを使用し、以前処方されたものを使う場合は、病院に確認してから使ってください。

熱があっても手足が冷たい時は、まだ熱が上がる可能性があるため、温めて様子を見ましょう。熱が上がって手足が熱くなってきたら、氷枕や保冷剤で体を冷やしましょう。嫌がる時は無理に使う必要はありません。衣類や掛け物で調整してください。汗をかくと熱が下がってきますが、入浴は体力を消耗するので、シャワーにしておくのがよいと思います。

かかりつけの先生から指示がある場合は、その指示に従ってくださいね

